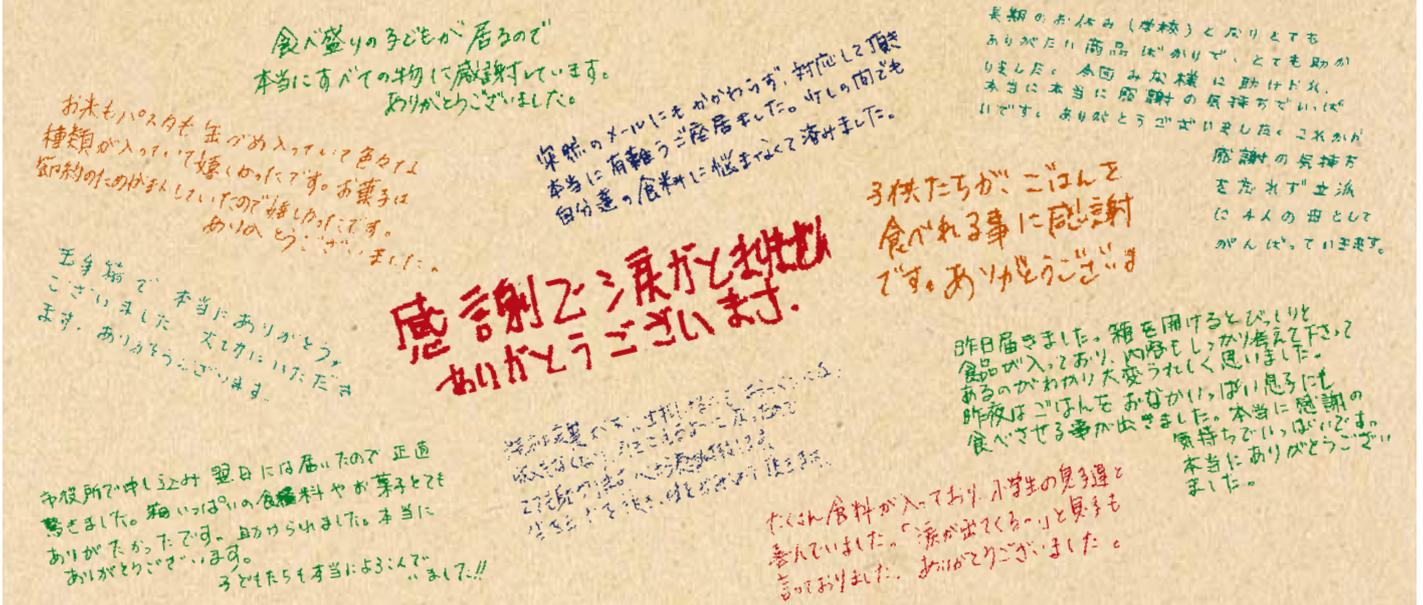




## 新型コロナウイルスと闘うセカンドハーベスト名古屋

受領書コメントを紹介しします。(受領書:支援箱に同封するハガキです。受け取られた方のご意見をいただくものです)



去る4月7日に政府の緊急事態宣言、続いて10日に愛知県独自の緊急事態宣言を受け、セカンドハーベスト名古屋(以降2HN)では、第一にボランティアの安全確保の上での活動参加を優先課題としました。

「持病がある」、「公共交通機関を使う」、「ボランティア参加に家族の同意を得ていない」ボランティアの参加は休止、最小人員でも運営出来る様に引取食品を週2回の常温品に限定、通常15~20件/日ある引取団体を困窮者支援団体のみに縮小し、東海三県の相談窓口との連携による困窮者世帯への支援を中心とした活動に舵を切りました。

しかし日を追って、次々と相談窓口から届く依頼FAXは明らかにコロナの影響を受けた失業者、休校に伴い食費に悲鳴を上げている母子家庭、ギリギリのところで生活を維持していたのに追い打ちをかけられた外国人…と緊急性の高い内容ばかり。そればかりか直接2HNに食べ物を求めて訪ねてこられた方も一桁では済まず、四日市から遠路40kmほどを自転車で訪ねてこられた若い女性もいらっしゃいました。

困窮者への支援箱発送依頼は急増。相談窓口からの支援依頼件数は前年を上回る日ばかり。1日当たりの平均依頼件数は4月が33件、5月が36件(2019年4月が19件、5月が22件)と激増です。

「今こそフードバンクの踏ん張りどころ」なのではないのか? でも、「外出8割減と言われる中、ボラ

ンティアに外出させてよいものか?」活動を縮小したとはいえ、箱詰めの際の食品仕分け・お米の精米・袋詰め作業、入力作業に電話対応、そして、明日には届けたい食品の梱包作業。人手はいくらでも必要! 一方、日々増加する新型コロナウイルスの感染者数に慄くばかり。ボランティアの安全確保とフードバンク活動の根源である困窮者支援の継続について、幾度となくジレンマを抱く場面に立たされました。

そんな時、外国人のある男性が食品を求めて来られました。「電気もガスも水道もない。仕事もない。死ねていわれているみたい。」「だけど、2HNの食べ物食べているから生きている。ありがとう。」困窮者が絶望しない様に、生きていけるように、今こそ「食べることは生きる事、誰一人食べ物の不足で死なせてはいけない。」「2HNを閉めてはいけない!」その思いは強くなるばかり…ある日の夕方、その日の困窮者への支援箱全てを作成し終えたボランティアの一人が、支援箱で一杯になった台車を眺めながら、「これでみんな、明日のご飯が食べられるね」の一言に救われた思いがしました。

「これでご飯が食べられるね。安心してね」を毎日繰り返して行く為に、ボランティアを出来る人が、出来る事を、出来るだけ(可能なだけ)やるのみ。無理は禁物、みんなが安全に明日も活動できる事。そしてそれを継続していくこと。それが何よりフードバンクに課された使命なのではないだろうか?

## お米が足りない!!



昨年11月頃のこと、2HNに衝撃が!

「お米の寄付が少ない!」例年新米の時期になると、農家をはじめ15tほどのお米を寄贈いただきました。ところが昨秋は不作の影響が5tほどと半分以下に留まってしまい…大慌てで各方面にご協力を仰ぐことに!

農家との繋がりの深い社協、連合愛知、お米屋・お米問屋、新聞各社、ラジオ出演、フードバンク新潟まで…ありとあらゆる手を尽くし、お米集めに励みました。以下に2HNの自称米米苦勞部、松岡篤史の活動を紹介します。

①正月明け、連合愛知の賀詞交換会にて佐々木龍也会長に窮状を訴えたところ、連合愛知としてフードドライブの実施等で2t、連合新潟、フードバンクにいがたへとつながり1t、計3t。

②1月の中日新聞記事を見た弥富の佐古木米穀店、星野光典代表が「何か協力をしたい」と。精米を1.5t、米商社の紹介をいただき大榮産業（正高彰仁さん）から300kg。星野さんからは協力継続中。

③愛三岐の各社協からの呼びかけにより愛知536kg、岐阜480kg、三重2,316kgと3t超。

④農家をはじめとする個人から4,441kg これらを合わせると玄米11tものお米です。

松岡曰く「①～④のどれもが、とってもありがたいものでした。決して秋口に油断をしていたわけじゃないけど、昨年12月にお米の在庫が7.2tとなった時は（月に2tは必要として）、これでは4月まで持たない。個人支援を続けるためには2HNが米を購入しないとイケない、と覚悟を迫られました。」「連合愛知が動いてくれた、日本農業新聞が全国レベルでその道のプロにつないでくれた、中日新聞が地元を広げてくれた、農家さんがリピート寄贈をしてくれた、これら



はどれが欠けても11tにはならなかった」、「当面7～8月までは何とか支援箱（1箱に5kg）の作成を続けられる。ただ毎月2t（コロナ禍の現在は月3.5t）は必ずお米が要るので、もっと頑張らなきゃ!お米集めは大変だけど、楽しいですよ。だって皆さん、こちらの思いをくみ取ってくれて、お米を引取に行くでしょ、記念写真お願いするんですよ。そうすると皆さんね、目いっぱい笑顔で写ってくれる。こちらがいただく側ですよ。なのに出し手側がとっても喜んでくれている。だからこちらも幸せな気持ちになるんです」

## 養護施設の現場から

社会的養護の自立支援として、施設を出た子ども達に支援箱を月1回お届けしています。

単身でも5kgのお米のお届け。多くないかなあ?と養護施設の職員さんに聞いてみました。

「お米ばかり余ったりしてないですか?」すると「いえいえ。収入のほとんどが生活費に消えてしまう彼ら、彼女らにとっては、大変ありがたくて。おかずはなかなか買えなくて、ほとんどご飯だけのお弁当を職場にも持って行き、恥ずかしいから蓋で隠しながら食べてるって言ってました。」私達の想像より厳しい生活がそこにはありました。

必要として頂いている方々にこれからも支援の手がしっかり届いて下さいますように。



▲発送を待つお米。希望者には小口のお米も。

▲隅々まで詰められた支援箱。

## 食品提供企業訪問



### たまご村（豊田市小原）

毎週火曜日の朝、たまご200パックを届けてくれる川口英之さん（50）（写真左、たまご村小原本店前で）平均して20,000羽を飼育しています。



#### ～2HNへの寄付を始められた、そのきっかけは？～

2年前の猛暑がきっかけです。鶏はエサをたべられなくなり、生まれる卵が小玉ばかりとなってしまいました。（M玉、L玉に比べ小玉は人気がありません）問屋さんにも小玉はあふれている…仕方なく小玉を捨ててました。ちょうどその頃、テレビのニュースで子ども食堂といった取組を観ました。ウチの卵も何か役にたてないか？と思い調べているうちに2HNにたどり着きました。

#### ～でも寄付となると、売り物であるはずの卵が収益を生まないですよ？～

川口さん苦笑い…実は2HNに寄付を始めたことを社内で話したところ、すごくイイことだと泣いてしまった社員がいました。今後も猛暑は続くであろうし、たまご村としての小玉対策です。捨てる！という食品ロスにも胸を痛めてきたので良かったです。

業務に支障がないように、毎週月曜夕方に空き時間を作り、そこで200パックを用意するしくみを作りました。

小玉を捨てなきゃならない悲しさ、問屋さんも困らせたくない、だったら「これは出したいくないコストじゃないな」と思ってます。ウチらは社会貢献なんて偉そうに言えないけど、自分たちのムダな部分を、どなたかにもらってもらっていただくことでこんなに喜んでもらえるなら、と考えています。（泣いてしまった社員、のところで私もウルッと来ました）



### たまご屋あさひ（東浦町）

月に2回ほど、たまご約2,000個を届けてくれる菅進さん（69）、地元で直販や各地のマルシェでの販売をしており、東浦町のふるさと納税返礼品にも選ばれており、平均して800羽を飼育しています。



#### ～2HNへの寄付を始められた、そのきっかけは？～

各地のマルシェで販売していると、1個10円程度の卵と比較され“高いね”と敬遠されることがあります。

全自動で工業製品的に作っている卵は、安いという価値があるわけで、それを否定はしませんよ。ウチはこだわりを持ってやっている、そこが伝わるとうれしいけど、なかなか世の中そうはうまくいかないなあ。問屋さんでも、1個10円の卵との比較になり、それに違和感があって、良い方法はないかと探して行き当たったのが2HNです。

#### ～名古屋コーチンの卵が1個66円、もみじという品種の卵は1個60円、それを寄付に？～

（苦笑い）、そりゃあねえ、持ち出しばかりだもん…他の連中にこの話をしたら「何バカなことを…」って言われたり…、でもまだちょっと気持ちに余裕があるから（また苦笑い）ただ、今回のコロナはこたえるねえ、月の売上の30%ぐらいは無くなって…

#### ～奥様、幸子さんに聞きました。2HNに持っていくたまごも幸子さんが1つ1つ丁寧に拭いてくれるそうです～

鶏が産んだたまごをねえ、捨てるわけにはいかない…食べてもらえるならそのほうがいいよねって。

問屋さんに持ち込むと買い叩かれてしまって、悔しい思いをしたんだと思いますよ、あんまり言わないけど。

（とってもシャイだけど、信念を持ってたまご作りに励む菅進さんを、幸子さんが支えている様子を感じました）



## お米寄付のお礼に、「フードバンクにいがた」に行って来ました



フードバンクにいがたは、ふだん8名程度のボランティアが活動しています。食品取扱量全体の7割、20tほどをお米が占めています。新潟県・市のパーソナルサポートセンター（名古屋市でいう暮らしサポートセンターと同じ）と同じビルに入居している

ので、生活困窮者支援の連携が強く、最近は母子家庭支援にも力を入れ、月に1度、60世帯にお米700kgを含む1tほどの支援を行っています。また県内4拠点を設け、食品の移動コストを抑える取組を進めるなど、



少人数ながらも多くのことを手掛けており、2HNが学ぶべき点がたくさんあります。

今年の2月、2HNと付き合いのある連合愛知の紹介で、連合新潟を經由してフードバンクにいがたとつながり、1tのお米を2HNに寄贈いただきました。

お米のお礼に2HNから味噌、スープなど常温保管が可能な食品を送るなどの交流が始まりました。

（写真は事務局の眞木英明さん、滝沢瑞枝さん 名古屋土産の寿がきや味噌煮込みを持って）



## 10周年記念イベントを開催



2019年12月21日(土) 愛知県芸術劇場 小ホール

セカンドハーベスト名古屋10周年記念イベントを開催しました。「0円キッチン」上映会の後は、日常の活動をボランティアが制作した映像をもとにご紹介。年末の慌ただしい時にも関わらず、167名の方にご参加いただきました。

## 支援の方法

### ■食品

現在、  
ください。  
げします。

### ■お金

#### 銀行振込

#### クレジットカード

### 2HNへの支援について

今後、いっそう生活困窮者は増え続けるものと予想されます。私たちは、そのような事態に備えつつ、さらに充実した食糧支援をしていきたいと決意を新たにしております。

今回の新型コロナウイルスによる影響によって、それぞれのご家庭におかれましても「非常事態」に陥っておられるかもしれませぬ。その場合は、どうぞご自身の生活を優先なさってください。

理事一同

庫へお送り  
も達へお届

